

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0473400802
法人名	有限会社 畳石介護センター
事業所名	グループホーム 親孝行
所在地 (電話番号)	石巻市須江字沢尻55番地 (電話) 0225-73-2452
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 19 年 11 月 27 日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	16 人
利用定員数計	18 人
	常勤 7 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 13.65 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	鉄筋	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(家賃3ヵ月分円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	13 名	
要介護1	6 名	要介護2	6 名			
要介護3	2 名	要介護4	2 名			
要介護5	1 名	要支援2	1 名			
年齢	平均	81 歳	最低	59 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	簡野医院 本郷歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは古くからの住宅と新興住宅団地が隣り合わせた一角にあり、2ユニットから成る。このホームの法人は観光業で、バス・タクシー・介護タクシー・訪問入浴・訪問介護と関連の事業所があり、毎月リフトバスを利用してイベント的に全員での外出がある。外食や温泉が人気があり外出の機会が多いのが特徴である。外出時の写真が廊下に貼られ、楽しそうな雰囲気が感じられた。毎年6月、ホーム主催のお祭りには大勢の地域住民も参加している。総合学習の一環として小学生が体験学習で来訪するなど貴重な社会資源となっており、地域との相互交流も活発である。多彩なメンバーからなる運営推進会議での意見を真摯に受け止め、このホーム独自の家族アンケートの実施や職員の顔が分からないことについて、職員の写真と名前を玄関に貼るなど即実行していることは評価したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点である理念に基づいた情報の発信啓発は、地域にも発信し改善されていた。居室の馴染みの品の持ち込みも工夫がみられ、ケアプランについても改善の努力がみられた。相談、苦情の受付については玄関に掲示されているが尚、運営推進会議の委員や民生委員など地域の第三者的な相談者を選定して欲しい、明記していただけるよう期待したい。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で関わり全項目を確認し管理者がまとめた。このことで、入居者の時間を大切にしたいというみんなの意識等の確認が出来た。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者代表・入居者家族・地域包括支援センター・地域の役職ある多彩なメンバーから成る運営推進会議は、これまでに10回開催され活発な意見交換の中から独自に家族アンケートで調査するなど効果を上げている。議事録を記録・公表し、サービスの質の確保・向上に繋げている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、日常生活の様子と金銭管理の報告を「親孝行広報」と共に郵送し、面会時には家族に話を聴き介護計画の策定やサービスの向上に繋げている。苦情、意見受付箱を玄関に設置し、相談窓口を設けている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	年に1,2回家族や地域の人たちと遠足にでかけたり、毎年ふれあい広場で地域交流会を主催し、家族・地域住民・ボランティア・小学生との交流の場を提供している。差し入れ等をいただいたりしている。又、町内会に入り回覧も回ってくるし、清掃活動などにも参加している。防災訓練では地域の協力をいただいている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念である「明るく笑顔と会話の絶えない家族」のもと、入居者は日々穏やかに暮らしている。地域密着型サービスの趣旨を話し合い、その具体化に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1度行われるスタッフ会議に於いても、理念について確認し問題点の意見交換をしている。何を食べたいか等の希望をとるなど、具体的なケアについて話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会・老人会に入会し清掃活動・行事等に入居者とともに参加したり、近所の人からのおすそ分けなどをいただいたりしている。小中学生が来訪した折、自分のおやつを分けてあげるなどほほえましいひと時があり、相互交流が図られている。		
と					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	項目ごとに職員が担当し、その結果を全職員で話し合い管理者がまとめた。入居者第一に考え、残された時間を大切に支援したいという思いを再確認した。今回の外部評価の結果を運営推進会議に送り、意見を聞いてサービスの向上に繋げたいとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多彩なメンバーから成る運営推進会議は2ヶ月ごとに開かれ、率直な意見が述べられている。早速実施したホーム独自の家族アンケートの結果を玄関に貼り、サービスの向上に活かしていることは評価したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村合併後の問題点も若干あるが、市主催の説明会等に参加したり、書類作成などの相談や入居状況の報告などを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に話したり、身体介護・日常の生活の様子など「親孝行会報」とともに毎月郵送している。金銭管理については出納帳を家族に確認してもらい、サインをいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付箱を設置し、家族アンケートからも意見の把握ができるが、外部の人の意見や苦情を前向きに受け止め支援に活かしていくためにも、第三者の相談者を選定して明示し、家族に説明して意見等を気軽に言える機会を作っていただきたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の職員異動はほとんど無いが、引継ぎは個別介護記録で状況確認をしており職員が交代しても継続して支援できる体制にある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修は年間計画を立てて定期的に行い、外部研修にも参加している。職員が統一性をもったケアができるように努力している。働きながら資格を取った職員もいて、更に上の資格を目指すなど職員の意識向上が見られる。今後のよりよい支援に繋がるよう期待したい。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域のグループホームとの交流があり、訪問してみると違いがみえてきて、意見交換などしてサービスの向上に繋げていけるようにしたいとのことである。更に、広く他のグループホームとの交流や情報を得る機会を捉えて一層の充実をお願いしたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心感を持ってもらえるように自宅を訪問したり、その後見学に来ていただいたりしている。他の入居者、職員ともできるだけ顔馴染みになってもらい、不安にならないよう心がけているが、職員により対応の違いが見られ勉強会などで学習をしていきたいとのことなので期待したい。	○	職員による対応の違いが少なくなるように全職員が思いを共有し、全体のケアのレベルアップとなるよう期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地域的にも農業の経験者がいるので農作物や料理について教えてもらったり、一緒に作った干し柿がつるしてあって季節感を醸し出していた。職員は仕事として当然と思っていることでも、入居者からありがとうという言葉をかけられ、感謝の気持ちを伝えるという大切さを学んで共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から希望・意向の把握に努めている。入居者と二人っきりになる時本音が聞けるので、傾聴を心掛けている。意思疎通が困難な方には、家族からの話を聴いたり生活歴や表情から汲み取るように努力しているが職員による違いが見える。	○	介護経験の少ない職員をカバーし、補い学習しながらスタッフの更なるレベルアップを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書に入居者及び家族の介護に関する意向を取り入れて、本人本位の個別・短期・長期の具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の見直しをしているが、状態が変化した時にはその都度、計画の見直しをして対処している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院に付き添い、入院した場合には毎日見舞いに行っている。外泊する時も送迎するなど柔軟に支援している。今後、デイサービス・ショートステイ等を念頭に、更なる柔軟な支援が出来るよう期待したい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医に受診できるよう、家族とも相談して職員が付き添い対応している。受診結果は家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入院の必要性は家族と医師が相談して決めているが、現時点ではどこまでを重度化と判断するか難しいところもあり、ホームで出来る介護の範囲の中で支援していきたいとしている。今後は家族・職員全員・医師等関係者の間で考え方(方針)の基本的な統一をお願いしたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の記録などの書類は職員室に置き、持ち出し禁止にしている。入居者の誇りを傷つけないよう言葉遣いに気をつける等の支援をしており、今後も個別性に配慮しながら対応の更なる向上となるよう期待したい。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間は本人の希望を取り入れているので、食事を遅れて摂る方もいる。昼食後には昼寝をしたり歌を歌ったり、本人の気持ちを尊重して自由に過ごせるように支援しており、そのための人員配置を考慮していきたいということなので期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間はみんな楽しみにしているので、食材の買い物にも一緒に出かけたり、選べる日を設けて好きなものを食べられるように支援している。入居者と一緒に食事作りや後片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	プライバシーの保護に配慮しながら、本人が希望する日に入浴をしていただいております。毎日入る方も週2～3回の方もいる。入浴を拒否する方には、時間をずらして勧めてみる等工夫して支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーション・食事作り・ホームで使う雑巾や手拭縫い・手芸・園芸作業などそれぞれの得意分野で力を発揮してもらえるように配慮している。仕事を頼み、その後感謝の言葉を添えるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1度、温泉や季節も考慮して遠方への遠足を実施している。散歩や馴染みの店での買い物をして気分転換を図っている。個人的外出も柔軟に支援していることは評価したい。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠している。昼は見守りを徹底したり、外出希望がある場合にはすぐ対応するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防火訓練と消防署立会いの消防訓練を行っている。消防署直通の通報装置も設置され、備蓄もしてある。近い将来、地震到来といわれていることも見据えて近隣の協力を得ながら夜間想定訓練もしているが、尚計画的な実施をお願いしたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、一日を通じた食事量・水分量・バランスを確認し、チェック表に記録している。今後とも美味しく、バランスよい食事の提供を継続していただきたい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体に木のぬくもりが感じられ、明るく落ち着いた雰囲気である。廊下に数箇所配置されている椅子は人の気配を感じながら一人になれる空間となっている。壁にレクリエーション時の写真が飾っており、生き活きとした表情で楽しそうな雰囲気が伝わってきた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と家族で相談して、使い慣れた馴染みの家具や日用品が持ち込まれ、生活歴が偲ばれる写真も飾られていて居心地のよさに配慮されている。		